

実務に就いて思うこと

あずさ監査法人 大阪事務所 谷澤 太一朗

2008年11月18日に公認会計士試験の合格者が発表され、全国で3,625名の方が合格されました。まずは合格者の方に合格をお祝い申し上げます。おめでとうございます。これまでの努力が報われた瞬間であったと思います。私も平成18年に合格し、早くも監査法人勤務が2年経ちました。私の場合、主に国内系のメーカー、卸・小売業の監査業務を行っています。配属された部門にはじめて出勤した日にいきなり現場に行くことになり、とまどいと緊張の連続であったことを覚えています。正直、エクセルさえ満足に使えなかったり、実務上では当たり前のことでも意外と知らなかったりするため、それまでの受験勉強とは違う実務のための勉強を改めてやり直す必要がありました。また、その後の会計基準が少しずつと改正されるので、それに対応するのも大変です。特に、今年度から内部統制報告制度、四半期報告制度が開始され、会社にとっても監査人側にとっても業務量がかなり増えたことは確かだと思います。ただ、今年度は初年度なので大変ですが、今後は徐々に落ち着いてくると思います。



監査の現場に携わっていると、日々の業務に忙殺されそうですが、その中で様々な業種や規模の会社について知ることができる機会が多いと思います。時には工場のような実際の現場を見学させていただく機会もあり、貴重な経験だと思います。このような、業務を通じて得られる経験は将来にとって貴重な財産になると思います。私もまだまだたくさん勉強していかななくてはいけないと痛感するとともに、いろんなことに興味を持ち成長できたらと思います。



監査法人での一年目の仕事

新日本有限責任監査法人大阪国際部 小林 祐介

私は、平成18年9月にアカウンティング・スクール（AS）を修了した後、翌年の公認会計士試験を経て、現在の職場での勤務が始まりました。入所して1年が過ぎようとしており、年間の業務の流れが掴みかけてきたところです。

所属する国際部は、その名の通り、海外との接点が多岐にわたる部署と言えます。メインの業務は、クライアント企業（主に外資系企業）の監査になりますが、私が関与している会社だけでも、ホテル、自動車部品メーカー、染料会社など業種は様々です。期中においては内部統制の評価を、期末においては実証手続をそれぞれ実施します。私もこの一年、スタッフの一員として様々な勘定を経験しました。会社が作成する財務諸表は、米国基準ベースやIFRSベースであったりするため、ASでもっと勉強しておけば良かったと反省しています。



次に、業務量としては全体の3割ほどですが、日本企業の海外子会社の監査に携わることもあります。海外の監査法人に監査指示書を送付し、現地監査人から送付されてきた監査結果要約書を翻訳して国内部門に回します。現地監査人とは、途中何度もメールで、時には電話でやりとりが発生します。英語を鍛えようという意思のある方にはうってつけの環境だと思います（今、少し食傷気味ですが…）。

所属監査チーム、法人内の他部署、現地監査人、クライアント、この仕事は、本当に周囲との関係で成り立っていると感じます。独立性を保持しながら、職業的専門家として周囲とどう良い関係を築いていくか。道はまさに始まったばかりというところです。